

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：32404

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25770138

研究課題名(和文)20世紀初頭中国における琴学の諸相

研究課題名(英文)Aspects of 'Qin' study in China in early 20th century

研究代表者

石井 理 (ISHII, Satoru)

明海大学・外国語学部・講師

研究者番号：20636021

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀初頭中国における「琴学」についての考察を行うにあたり、当時中国各地で営まれていた雅集や琴社の活動を全国規模に高めたとして評価される周慶雲を調査対象とすることから開始した。周慶雲および同時代の琴学者による活動は、1)各地での琴社の組織、2)全国的な琴会の開催、3)「国楽」の制定や「雅楽」の整備に対する琴学者の参画など、様々な文化現象として現れた。特に、北京大学音楽研究会古琴導師の王露や大同楽会代表の鄭観文は、西洋音楽推進派の代表的人物である蕭友梅から断定的な批判を受けながらも、西洋中心主義に傾く近代中国において古典文化の「琴学」に正当な位置づけを与えようとした動きとして重要であった。

研究成果の概要(英文)：I researched from Zhou Qing-yun who is appreciated as raising the activities of 'Yaji' and 'Qin' society nationwide, which had been running in various parts of China at that time, then discussed the 'Qin' study in China early in the 20th century. Activities by Zhou Qing-yun and contemporary scholars of 'Qin' appeared as various cultural phenomena such as 1) Organization of 'Qin' society in various places, 2) Holding nationwide 'Qinhui', and 3) the establishment of national music and the participation of 'Qin' scholars on the development of 'Yayue'. Especially Wang Lu who worked at Professor Kokko at Beijing University Music Research Institute and Zheng Bun Weng who was representative of 'Datong' music conference, despite assertive criticism from Xiao You-mei, a representative character of Western music promotionism at the time, was important as a move to try to give a legitimate position to classical culture 'Qin' study in modern China which lean towards Westernism.

研究分野：中国古典文学

キーワード：清末民初 琴学 古典音楽 伝統音楽 東西の衝突 西洋中心主義 近代化 古琴

1. 研究開始当初の背景

それまで、近代中国の政治、教育、娯楽文化など諸側面の変化をめぐって、様々な研究が行われていたが、音楽文化についていえば、榎本泰子氏の『楽人の都・上海 近代中国における西洋音楽の受容』(研文出版、1998年)、『上海オーケストラ物語：西洋人音楽家たちの夢』(春秋社、2006年)、『上海：多国籍都市の百年』(中央公論社、2009年)で租界地域を中心とする上海における、都市の西洋化を背景とした西洋音楽の受容と発展を中心に考察が行われており、高埡氏の『近代中国における音楽教育思想の成立 留日知識人と日本の唱歌』(慶應義塾大学出版社、2010年)では、19世紀末から20世紀における、中国の音楽教育思想をめぐるとしての詳細な考察が行われていた。中国でも、汪毓和『中国近代音楽史(第三次修訂版)』(中央民族大学出版社、2009年)などがあり、上記四種も含めていずれも近代中国における西洋化の道のりを主たる叙述対象としている。

一方で、古琴あるいは琴学についての研究は盛んになりつつあるという状況であった。古琴国際学術シンポジウムの論文集である『琴学薈萃 第一屆古琴国際学術研討会論文集』(齊魯書社、2009年)、『琴学薈萃 第二屆古琴国際学術研討会論文集』(齊魯書社、2010年)が刊行されるなど、国際的な研究活動も始まったところであった。こちらは古琴の伝統性の所在についての論考が多く、近代中国における「琴学」について叙述される際も、伝統文化の保存という意義が強調される場合が多い。上記のような学術状況は本研究にとって非常に参考価値が高いといえるが、「琴学」転換期としての意義を論じるような研究は従来行われていない。

2. 研究の目的

本研究は、周慶雲、鄭観文(1872-1935)、王露(1879-1921)をモデルとしてとりあげ、20世紀初頭における「琴学」についての考察を行う。周慶雲は、清朝崩壊を待たずに古典的「士」の身分から脱却して実業家として財力や名声を獲得した点や、自身の開催した琴会で女性や欧米人の参加を積極的に促した点で異質な存在である。そのため、本研究では周慶雲を中心とし、鄭観文や王露の事績と照合しながら、当時の「琴学」の諸相を総体的に理解することを目的とするものである。

一般に、東アジアの近代化は西洋化の歴史であったと見做され、その上で伝統(東洋)と近代(西洋)の対立軸が設定されることが多い。それに対して、本研究で得られると期

待される成果は以下の点において特色がある。1) 一見したところ伝統に固執したかのようにも思われる「琴学」の主体(元々の「士」)たちが、主に租界地域より流入した西洋文化に触れ、自身の変容を余儀なくされたことを明らかにしうる点、2) 近代科学を中国に齎した西洋人が「琴学」(伝統)に触れることで、逆に中国の古典的「士」の姿から影響を受けたことを明らかにしうる点、3) 西洋文化(近代科学)に傾倒することで「士」から脱却しようとした人士も、思想の根底にはやはり「琴学」(伝統)に由来する教育思想を持っていたことを明らかにしうる点。

3. 研究の方法

本研究の具体的な方法は以下の通りである。20世紀初頭の「琴学」の歩みにおいて重要な人物である周慶雲(1866-1934)、鄭観文(1872-1935)、王露(1879-1921)の関係資料を収集し、翻刻・訳注作業を行い、その上で各人物の業績や思想など多方面からの考察を行う。それにより、20世紀初頭の「琴学」の諸相について明らかにする。

第一年度は、主に周慶雲関係資料の収集整理を行った。これについては既におよそ七割が完了していたので、翻刻・訳注作業を進めると同時に、鄭観文や王露らの関連資料収集も平行して進め、これらと照合しながら20世紀初頭の「琴学」をめぐるとしての基礎的研究を行った。

第二年度は、主に鄭観文や王露らについての関係資料収集整理作業を継続して進めた。また、同時代に音楽教育の西洋化を試みた蔡元培や蕭友梅のような、異なる立場の人士による動きにも注目し、同時代知識人の全体像をできるだけ総体的に把握するよう努めた。

第三年度は本研究の総決算として、それまでの研究成果を用い、また西洋人による「琴学」や東洋音楽に対する言及(英語文献)にも注目しながら、同時代東西文化人にとっての「琴学」の全体像を総体的に把握した。

4. 研究成果

20世紀初頭中国における「琴学」についての考察を行うにあたり、当時中国各地で営まれていた雅集や琴社の活動を全国規模に高めたとして評価される周慶雲を調査対象とすることから開始した。周慶雲および同時代の琴学者による活動は、1) 各地での琴社の組織、2) 全国的な琴会の開催、3) 「国楽」の制定や「雅楽」の整備に対する琴学者の参

画など、様々な文化現象として現れた。特に、北京大学音楽研究会古琴導師の王露や大同楽会代表の鄭觀文は、西洋音楽推進派の代表的人物である蕭友梅から断定的な批判を受けながらも、西洋中心主義に傾く近代中国において古典文化の「琴学」に正当な位置づけを与えようとした動きとして重要であった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

石井理「鄭觀文の古楽復興と琴学 『中国音楽史』を手掛かりに」
(『WASEDA RILAS JOURNAL No.3』、p482-473、早稲田大学、2015年10月、査読論文)

石井理「周慶雲の晨風廬琴会 その開催と意義」
(『中国文学研究』第40期、p74-87、早稲田大学、2015年2月、査読論文)

石井理「周慶雲の琴学復興運動について 晨風廬琴会を例として」
(『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第58輯、二三頁-三四頁、早稲田大学、2012年12月、査読論文)

〔学会発表〕(計 8件)

石井理「楊宗諤の琴楽振興をめくって 周慶雲との比較を通して」
(中国文学会第39回秋季大会、2014年12月6日、早稲田大学、学会発表)

石井理「『鳳求凰』研究」
(第二回中国琴会打譜会、2014年11月28日、杭州天元大厦、国際学会)

石井理「民初琴人群體考 以兩批琴會為主」
(中国語言、文学与文化研討会、2014年5月31日、早稲田大学、国際学会)

石井理「民国初期琴樂復興活動 以1920年為分界」
(文本詮釋傳播シンポジウム、2013年12月27日、復旦大学(中国)、国際学会)

石井理「民国初期における琴樂振興活動 周慶雲を中心とする交友関係を軸に」
(日本中国学会第65回大会、2013年10月12日、秋田大学、学会発表)

石井理「在《琴操》裏的紀功樂舞因素」
(亞洲儀式戲劇シンポジウム、2012年11月

17日、山西師範大学(中国)、国際学会)

石井理「周慶雲的琴學復興運動 以晨風廬琴會為例」
(日中古典籍與文學國際シンポジウム、2012年9月14日、琉球大学、国際学会)

石井理「周慶雲の琴学復興運動について 晨風廬琴会を例として」
(中国文学会第37回春季大会、2012年6月23日、早稲田大学、学会発表)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者
石井理 (ISHII, Satoru)
明海大学・外国語学部・講師
研究者番号：20636021

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者

()